

(公社) 日本地すべり学会 関東支部・(一社) 斜面防災対策技術協会 関東支部 「群馬県少林山地すべりの現地見学会」開催報告

1. 実施概要

関東支部では、平成 27 年度より (一社) 斜面防災対策技術協会 関東支部との共催事業を行っております。今年度は、著名な地すべりであり対策工事が完了し跡地利用がされている『少林山地すべり』について、現地見学会を行いました。以下に報告します。

- (1) 開催日：平成 30 年 11 月 9 日 (金)
- (2) 開催場所：群馬県高崎市鼻高町地内
- (3) 主催：(公社) 日本地すべり学会 関東支部 および
(一社) 斜面防災対策技術協会 関東支部
- (4) 協力：群馬県県土整備部砂防課・高崎土木事務所
- (5) 参加人数：57 名 (うち学生 1 名)



写真-1 地すべり対岸からの見学

2. 現地見学会の内容

群馬県少林山地すべりは、高崎市西部の「縁起だるま」の寺として有名な『少林山達磨寺』を中心とした面積 85ha の地すべり防止区域 (少林山) 内に発生した地すべりです。

地すべり現象は、昭和 33 年 9 月に碓氷川右岸の鼻高町寺沢地区で亀裂が発生し、その後、対岸の堤防や国道 18 号が 5m も隆起する等、被害区域が拡大しました。地すべり対策工事は、昭和 35 年度から平成 11 年度の 40 年間で約 40 億円をかけて概成し、現在活動は沈静化しています。対策工事による大規模排土の跡地は、遊歩道や展望デッキが整備され、憩いの広場として土地利用されています。

見学会では、まず冒頭に、地すべり防止区域を管理する高崎土木事務所の若田部所長に挨拶を頂きました。その後、すべり面が末端の河川を横切って隆起した対岸の堤防に立ち、地すべり地形全体を一望すると共に、堤防の隆起状況や、河川勾配が緩くなっている状況を見学しました。地すべり地内に移動した後は、対策工を前にして、対策工計画の考えや各々の対策施設について説明を受けながら、実際に対策工が機能している状況を見学しました。現場での苦労話をまじえながらの説明は、より実感のこもった内容で、見学者からは、多くの質問が寄せられるなど有意義な見学会となりました。

3. おわりに

関東支部では、来年度以降も (一社) 斜面防災対策技術協会 関東支部との共催事業を実施していく予定です。

最後に、現地見学会の開催に御協力頂いた群馬県県土整備部砂防課・高崎土木事務所ほか、関係者の方々に厚く御礼申し上げます。



写真-2 対策施設見学状況



写真-3 現地での集合写真

(関東支部幹事会 木村勝美)